

dERU（国内型緊急対応ユニット）

主な特徴

- ・ 仮設診療所設備
 - ・ トラック
 - ・ 自動昇降式コンテナ
 - ・ 訓練された要員を円滑に運用するためのシステム
- の総称



構成（救護班2個班＋薬剤師＋助産師）

- ・ 医師2名、看護師長2名、看護師4名、薬剤師1名、助産師1名、主事4名
- 計14名が1チームを構成



赤十字ボランティア

○ 赤十字奉仕団規程準則

第5条 本団は、次に掲げる実際活動に従事する。

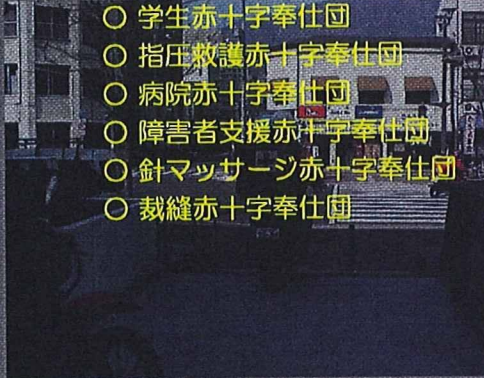
- (1) 災害救護に関する奉仕
- (2) 保健衛生等に関する各種事業への奉仕
- (3) 社会福祉施設及び援護を要する者への奉仕
- (4) その他赤十字の理想を達成するために必要な奉仕



地域赤十字奉仕団	2,292団	2,033,139人
青年赤十字奉仕団	164団	6,312人
特殊赤十字奉仕団	635団	36,912人
個人ボランティア		3,525人
計	3,091団	2,079,888人

奉仕団活動のバリエーション

- 地域赤十字奉仕団
- 安全赤十字奉仕団
- スキーパトロール赤十字奉仕団
- 無線赤十字奉仕団
- 点訳赤十字奉仕団
- 語学赤十字奉仕団
- 芸能赤十字奉仕団
- 手話赤十字奉仕団
- 朗読赤十字奉仕団
- ダンス赤十字奉仕団
- 飛行赤十字奉仕団
- 海上・船舶赤十字奉仕団
- 理学療法赤十字奉仕団
- バイク赤十字奉仕団
- 看護赤十字奉仕団
- 青年赤十字奉仕団
- 学生赤十字奉仕団
- 指圧救護赤十字奉仕団
- 病院赤十字奉仕団
- 障害者支援赤十字奉仕団
- 針マッサージ赤十字奉仕団
- 裁縫赤十字奉仕団



赤十字講習受講者の活用

〈救急法〉

日常生活における事故防止、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、**災害時の心得**などについての知識と技術を習得。

基礎講習（BLS）	60,302人
救急法	388,957人
水上安全法	50,281人
雪上安全法	363人
幼児安全法	63,890人
健康生活支援講習	79,752人
計	643,545人



赤十字血液センター

- 赤十字血液センター 65ヶ所
- 献血ルーム 141ヶ所（診療所の許可）
- 移動採血車 299台
- 献血運搬車 756台
- 献血者 514万人



医療提供機能・血液製剤供給機能はもとより、傷病者や避難者の収容機能等 Resource としても・・・

救援物資の備蓄、配分

- 毛布 317,135枚
- 緊急セット 91,718セット
- 安眠セット 32,374セット
- ブルーシート 21,580枚
- タオル・バスタオル 92,503枚



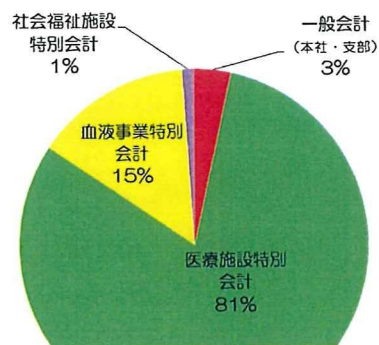
義援金取り扱い状況

17億3000万円 (平成20年度)



社資募集状況(一般会計) 365億2千万

日本赤十字社の財政(H21年度予算)



赤十字の理想とする人道的任務を達成

一般会計	36,520,000 千円
医療施設特別会計	858,570,000 千円
血液事業特別会計	153,510,000 千円
社会福祉施設特別会計	11,660,000 千円
合計	1,060,260,000 千円

DMA T活動における 赤十字リソース活用のヒント

- ④ 日赤無線通信環境 と DMA T通信インフラ
- ④ 医療資機材 と 病院支援
- ④ dERU と SCU
- ④ 赤十字奉仕団 と 通信、搬送、食糧確保等のロジ
- ④ 献血車・ルーム と 応急救護所
- ④ 救援物資 と ロジステーション
- ④ ボランティア と トリアージ
- ④ 心のケア と チーム管理



結 語

- 日本赤十字社には、素晴らしいリソースがたくさんあるが、広く国民に認識されているだろうか。
- これらは、活用しなければ単なる報告書の数字に過ぎない。
- 活用するためには、日頃からメンテナンスをしなければならない。
- 活用できる人材（ロジ）の育成と教育の継続は重要である
- 日本赤十字社の関係者だけのためのリソースではなく、すべては被災者のためのものである。



DMAT支援隊静岡

H20-1-6結成

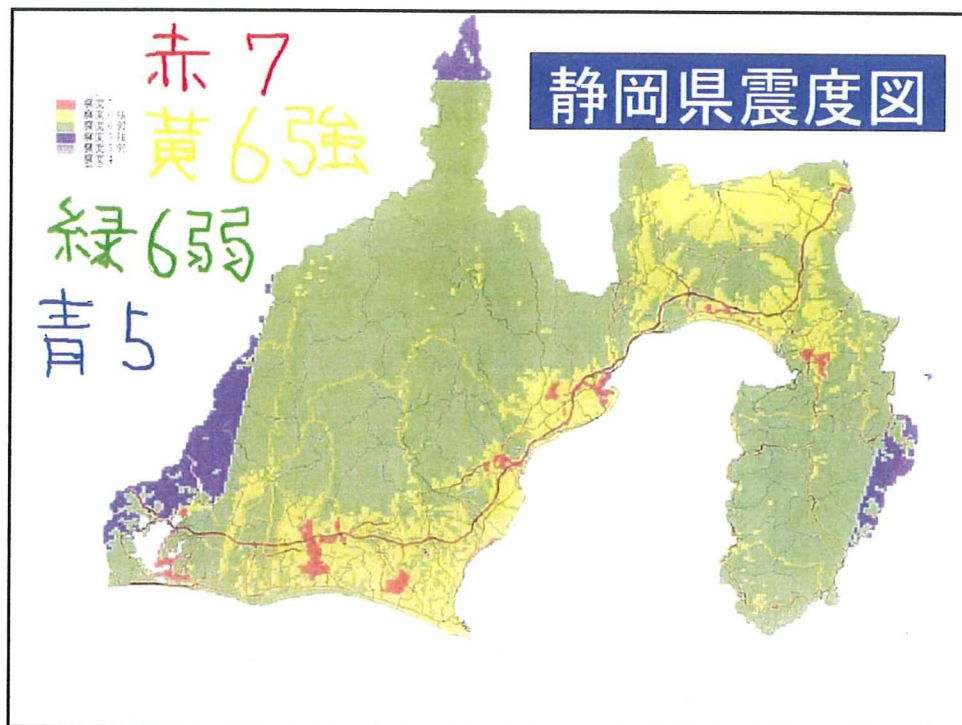


東海地震とは？

人的被害想定(冬の5時)

	死者	重傷者	軽傷者	生き埋め
静岡県 370万人	5,851	18,654	85,651	28,070

* 静岡県19災害拠点病院の合計ベット数
約10,000床



DMAT支援隊静岡

支援の内容

1. 情報提供： 被災地域内の活動場所
交通情報
2. 移動・搬送支援：空路で入ったDMATの移動、
医薬品、補給品、の搬送
3. 診療支援： 仮設救護所の設営
医療資機材・薬の補充
4. 生活支援： 水、食料、宿泊場所の確保

1・情報提供(主として道路情報)

県内主要道路の情報収集を隊員でやりきるのは膨大な人数を要し、得策でない。

行政、企業など既存の組織の情報を集める。

接触した組織・企業

県防災局、消防、中日本高速道路、郵便局、新聞社(静岡新聞、毎日新聞)、放送(NHK、SBS、FM静岡)、NTT、日本赤十字奉仕団、静岡鉄道、トラック協会、タクシー協会、静岡銀行、Jatco、鈴与、他数社

可能性のある組織

1) 中日本高速道路

情報収集する体制ができており、電話で得る事が可能

2) 静岡新聞

新聞配達のために道路情報を集める形ができています。隊員が本社に行き情報を得る

3) 郵便局

支部毎の情報を名古屋で集める。現在静岡市4支部と話がすんだ

4) 日本赤十字

静岡県地震対策オペレーション2010 大規模図上訓練 '10-1-15



5) 静岡県危機管理局

市町村、自衛隊、消防、中日本高速道路、気象庁、日赤支部などの情報が集まることになっている。

* 発災後、国の省庁がすべて官邸からヘリで県防災局に入り、現地災害対策本部を作る。

* 航空管制は自衛隊が行なう。

自衛隊への航空機要請もここで行われる。

2・移動・搬送支援

主として航空機で静岡入りしたDMAT隊を
災害拠点病院に移送する。

- * 陸路がどれだけ使えるかによる。
- * DMATの行動が決まらないと支援できない。



3. 診療支援

- DMATが現場にどのように展開するのか不明なため、進めない。
- 現場に出るDMATの支援(移動、救護所設営、宿泊場所提供、水食料提供)は可能

4・生活支援

宿泊:

静岡大学保健管理センター

トヨタカローラ静岡(株) 20営業所

コマツ東海株式会社 7営業所

訓練



DMAT支援隊静岡の課題

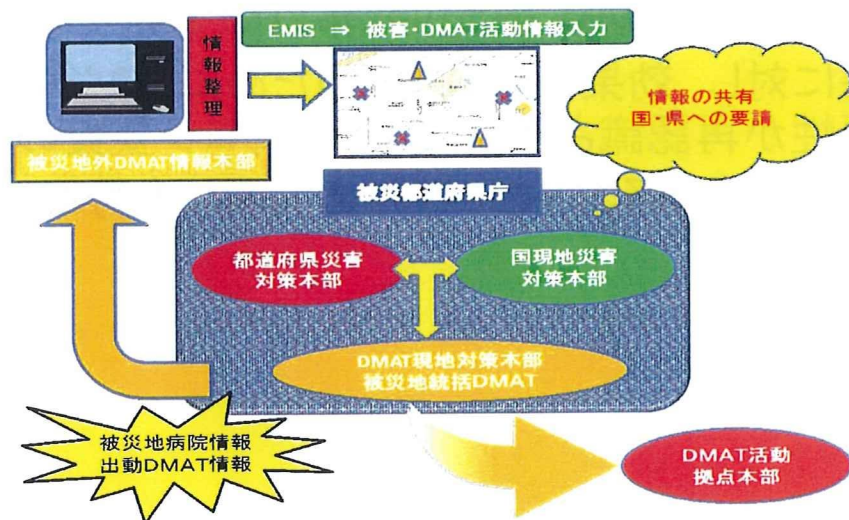
- ✓組織: ボランティアが多く、確実性に乏しい
中部地区に広がっているが、東部、西部に組織がない
- ✓本部: 静岡大学だが24時間機能するのは難しい
- ✓情報: メール、アマチュア無線を考えているがまだできていない

東海地震でのDMATの アプローチへの私の意見

- 1) 現在できないことを災害時にできない。どの災害拠点病院に入るか決めておくべきでは。
- 長所; ①平時に双方の情報のやり取りができる
②顔の見える関係ができ災害時の関係がスムーズ
③直接情報のやり取りができる④拠点病院支援の平等化。⑤活動拠点本部を経由せず入ることができる。
- 短所; その通りに動けるとは限らない

- 2) 東名高速道路を含め、陸路目的地に着ける可能性は低い。陸路入る予定のDMATは高速道路情報に注意し、不通であれば、広域搬送拠点から自衛隊機で被災地に入ることを考えるべき。その先は静岡県で拠点病院まで運ぶことが可能。
- 3) 東海地震は被害想定が公表されている。DMATの活動計画を被害想定に基づいて具体的にたてられないか。

現地での指揮系統と情報



国際緊急援助隊のロジスティクス —西スマトラ地震の実例から—

国際緊急援助隊事務局
大友 仁



国際緊急援助活動におけるロジの重要性

国際緊急援助隊では1998年以降多発する災害に対し、効果的活動を行うために、ロジの重要性が再認識され、1999年以降ロジ要員の確保を進めるとともに機材の充実にも努めてきた。

緊急援助隊活動におけるロジ管理事項

- ① 移動手段確保
- ② 通信
- ③ 資機材管理
- ④ 環境整備
- ⑤ 人員管理
- ⑥ 安全・健康管理

西スマトラ地震災害医療チーム 派遣概要

西スマトラ地震

- 日時
 - 9月30日午後5時16分
 - 日本時間同日午後7時16分)
- マグニチュード
 - 7.6
- 震源地
 - インドネシア・スマトラ島
 - 西部パダンの沖合
- 人的被害(10月12日現在)
 - 死者 881
 - 重症者 907



国際緊急援助隊医療チーム

- 期間 10月1日～14日
- 場所 西スマトラ州パリアマン市等
- 人員 23名
 - 団長、副団長(2名)
 - 医師3名
 - 看護師7名
 - 薬剤師1名
 - 医療調整員5名(看護師1、臨床検査技師1、放射線技師1、救急救命士2)
 - 業務調整員4名
- 結団式
 - 第一陣 10月1日19時
 - 第二陣 10月2日12時

パダン都市部の被災状況



パリアマン都市部の被害



移動行程

第一陣

- 10月1日
 - 19:00 結団式
 - 23:18 成田発
- 10月2日
 - 5:55 ジャカルタ着
 - 7:10 ジャカルタ発
 - 9:40 パダン着
 - 終日 サイト選定
- 10月3日
 - 6:00 パダン発
 - 8:30 パリアマン着

第二陣

- 10月2日
 - 12:00 結団式
 - 14:10 成田発
 - 19:10 ジャカルタ着
- 10月3日
 - 8:00 ジャカルタ発
 - 10:30 パダン着
 - 20:00 パリアマン着

診療



① 移動手段確保

1. チャーター機で救助チームとともにジャカルタまで移動
 2. 国内便チャーターでパダン市まで移動
 3. 迅速派遣が実現
 4. 機材移動のトラックが確保できず一部隊員が10時間近くパダン空港に足止め
 5. 多数の国際チームの駆けつけにより政府もUNも移動手段の手配できず
- * 被災地外からの移動は、どうにかなるが、被災地に入ってから移動は思った以上に困難

② 通信

1. インマルサット4台、イリジウム1台、無線機9台、現地携帯電話4台(2陣到着後)
 2. チームが調査隊2、空港機材引取り、救助指揮本部待機、の4チームに別れ通信不通
 3. サイト決定後、ロジステーションの設置とともに通信問題解消
- * 実は日本の携帯電話ローミングサービスは比較的通話できていた。
- * ロジステーションの早期立ち上げが通信状況向上のために必要